

今月号に掲載の講座一覧は、市ホームページでもご覧いただけます。詳細情報やチラシを掲載している講座もありますので、ぜひご確認ください。



柳沢公民館	柳沢1-15-1	☎042-464-8211	kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp	谷戸公民館	谷戸町1-17-2	☎042-421-3855	yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館	南町5-6-11	☎042-461-1170	tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp	ひばりが丘公民館	ひばりが丘2-3-4	☎042-424-3011	hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館	芝久保町5-4-48	☎042-461-9825	shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp	保谷駅前公民館	東町3-14-30	☎042-421-1125	ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

西東京市出身、新進気鋭の川柳作家  
暮田真名さんに聞く、現代川柳の世界



暮田真名さん  
1997年生まれ。22歳まで西東京市で過ごす。2020年に出版された現代川柳の決定版アンソロジー『はじめまして現代川柳』（書肆侃侃房）に最年少で入集。「川柳句会ごんごん」主宰。句集『補遺』『べら』『当たり』（私家出版）。2022年、初の商用出版として句集『ふりよの星』（左右社）を発行。

いけにえに  
フリルがあつて恥ずかしい  
良い寿司は  
関節がよく曲がるんだ  
県道の  
かたちになった犬がくる

川柳界に彗星のごとく現れ、「Z世代のNEO川柳作家」とも評される暮田真名さん(芝久保町出身)。現在は早稲田大学大学院で川柳作家時実新子の研究をされています。

「川柳をはじめたきっかけは?」  
最初に興味を持ったのは短歌です。中学3年の時に、歌人の穂村弘さんの「世界音痴」というエッセイを図書館でたまたま見つけて、その穂村さんが紹介していた笹井宏之さんという歌人をきっかけに短歌を詠み始めたという感じですね。

「それで今の道に進もうと?」  
実はそういうわけでもないんです。理系が多い女子校に通っていたのですが、理系が全然でないことに気づいて国語と社会と英語だけ入れる私立文系に。もし理系科目が来ていたら、理系に行っていたかもしれな(笑)

短歌は好きだったので、大学で短歌サークルに入ったんですけど、自分で書くのはとても難しく、5・7・5で済む俳句だったらいんじゃないかと言われて俳句研究会にも一応入りました。でも、俳句ってすごく決まりが多くて、季語を使わないといけないとかがあるので、俳句もちょっと...となっていた時に、川柳の本を偶然読む機会があり、自分でも作ってみようと思ったのが最初です。始めてみたら川柳って、特に始めた5年前は若い人が、本当にいなくて、20代で川柳に興味を持っているというのが珍しすぎて、川柳界のおじいちゃんおばあちゃん方からちやほやされました(笑)

何かを伝える道具としてではない視点で「言葉」を取り扱ってみる、という感覚はありますか?

「川柳って俳句とか短歌よりいろいろな種類があつて、その幅がすごいです。例えば俳句でいうと、エンタメ番組で取り扱っている俳句なんか、本立に俳句を文学として取り組んでいる人達の俳句からそんなに離れていないという感じがあります。川柳の場合は、サラリーマン川柳とかが一方にあって、私がやっているような現代川柳とは全然交わらない。お互いに無関心であることで均衡を保っているみたいなところがあります。」

「暮田さんがやっている『現代川柳』とは?」  
個人的には、私たちは普段言葉で意思疎通のための道具として使っているけれども、一旦言葉と道具として使うところから離れて、そうじゃない側面に注目して見る、みたいなものだと思います。

「ひとつに発音が単純に面白い等があると思うんですけど、意味は纏っていない?」  
そうですね。なるべく作る過程でこの句はこういう風に詠まれる可能性があるというものは捨てたり、なるべく自分もどういう風に詠まれるのかよく分からない状態になったものを出している、という感じですね。

「川柳について教えてください」  
川柳って俳句とか短歌よりいろいろな種類があつて、その幅がすごいです。例えば俳句でいうと、エンタメ番組で取り扱っている俳句なんか、本立に俳句を文学として取り組んでいる人達の俳句からそんなに離れていないという感じがあります。川柳の場合は、サラリーマン川柳とかが一方にあって、私がやっているような現代川柳とは全然交わらない。お互いに無関心であることで均衡を保っているみたいなところがあります。」

「川柳の魅力とは?」  
私も最初は他のジャンルをやっていたので分かるのですが、川柳は言い方が悪いんですけど、他と比べて簡単に作れると思うんです。ルールを分かっている必要が無いし、短歌は自分の内面と向き合うことが割と大事にされていると思うんですけど、川柳は言葉遊び感覚で好きな単語を散りばめて作ることができるので、楽しくできるのかなと思います。

「明確な正解という幹のようなものがない感じがします。とても自由度が高い」  
そうですね。川柳はすごく教えるに比べて、講座をオンラインでやらせてもらったりもしているんですけど、5・7・5で文字が並んでいたら一応それで川柳なので、そこをダメとするか良いとするかというのは個人がどういう句を作りたいかに任せられている部分が多いところがあります。俳句みたいな理想の正解がある感じじゃないのかなとはやっぱり思いますね。

「現代詩とか小説などの難しいものは滅茶苦茶難しいと私は思うのですが、川柳は訳が分からなくても5・7・5で終わってくれるから、意味分からないのがずっとは続かない。そこが親しみやすさかなと思つてます。自

「川柳の魅力とは?」  
私も最初は他のジャンルをやっていたので分かるのですが、川柳は言い方が悪いんですけど、他と比べて簡単に作れると思うんです。ルールを分かっている必要が無いし、短歌は自分の内面と向き合うことが割と大事にされていると思うんですけど、川柳は言葉遊び感覚で好きな単語を散りばめて作ることができるので、楽しくできるのかなと思います。

「田無駅周辺を吟行して出来上がった暮田さんの作品」  
ほんものの防犯カメラに映りたい  
本邦が困ったことに水の泡  
海岸にちよつと匹敵してみよう  
送り仮名ごといらっしゃいませ  
コンビニを作りつづけて十五年

訳が分からなくても5・7・5で終わってくれるから、「分からない」がずっとは続かない。そこが親しみやすさかなと思つてます

「反面、自由だからこそ難しいとも思います。そこを暮田さんは難しいところを自由だから楽しいし深められたのでしょうか?」  
ある意味、人からこうしなさいではなく、自分がこうしたいという方向に進んでいける、開かれています。川柳は簡単なので、みなさんやっただ方がいいと思います。川柳と出会う機会が今すぐく限られているので、きっかけをもっと増やして、川柳って面白そうだなって思う人を増やしたいですね。



昔、お父さんとよく行ったという老舗喫茶店の前で足を止める暮田さん。